



編集・発行

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1
TEL : 072-957-2121
FAX : 072-958-3291
HP : <http://www.ra.opho.jp>
E-mail : kokyucen@ra.opho.jp



アスベスト曝露と悪性中皮腫・肺癌

医務局長 兼 病理診断科・臨床検査科主任部長 河原邦光

アスベストは、天然に産出される鉱物の繊維であり、その繊維は綿のように柔らかいため石綿とも呼ばれています。そして、このアスベストが、耐熱性・耐薬品性・絶縁性に優れ、大量に産出され比較的安価な物質であったこともあって、過去には建築資材・電気製品・自動車や家庭用品などで広く利用され、「奇跡の鉱物」や「魔法の鉱物」と呼ばれてきました。本邦では、1764年に平賀源内が火浣布(かかんぷ)として利用したのがアスベスト製品の使用の嚆矢とされています。ところが、近年、これらのアスベストの繊維を肺に吸入(曝露)し続けると、20-50年後に石綿肺、肺癌、悪性中皮腫などの疾患が発症することが医学的に明らかになってきました。そして、現在では、その評価が、「奇跡の鉱物」から「死の粉じん」へと激変してしまっただことは皆さんも周知の事実です。

本邦において、このアスベストの問題がマスコミに大きく取りあげられ、世間の注目を集めたのは、2005年6月のクボタ旧神崎工場(尼崎市)において、多数の労働者や周辺住民がアスベスト曝露による悪性中皮腫や肺癌によって死亡しているという所謂クボタ・ショック報道が契機でした。さらに、2005年10月の厚生労働省の中間報告では、全国の病院、障害者施設、特別養護老人ホーム、保育所などのうち、4226施設で吹き付けアスベストが見つかったことが報告され、アスベスト被害が本邦全域に広がっていることも明らかになった次第です。

このようなアスベストが原因で発生する悪性中皮腫や肺癌に、当センター病理診断科・臨床検査科は、早い時期から取り組み、多くの症例を経験し、高い精度でこれらの疾患を確定診断してきました。

また、診断が確定した後は、肺腫瘍内科での抗がん剤を用いた化学療法、呼吸器外科における胸膜肺全摘術などの外科治療が行われています。もし、不幸にも、アスベストが原因で発生する悪性中皮腫や肺癌に罹患された場合には、当センターにおいて、このような高いレベルの診断・治療を受けられることを強くお勧め致します。



痛風と私

臨床検査科 大和章宏

検査に尿酸(UA)という項目があります。この尿酸の検査値が高くなるとどうなるか?私、臨床検査技師大和が遭遇した事実をここに告白します。

それは遠い昔、私が30代半ばの頃健康診断で尿酸が高い事を指摘された事に始まる。しかし若気の至りでそのままほったらかしにしていた。その後毎年数値が少しずつ上昇しても、痛くも痒くもないため、大丈夫、だいじょーぶと放置し続けた。しかしこの時、恐ろしい病魔が忍び寄っている事に、アホな私は気づかなかった。

そしてある日の朝、私は異様な感覚に襲われて目覚めた。「なんか右足が変だな」と思いながらも、トイレに行くためにベッドから床に足を着けた瞬間、「ぎゃあー」とんでもない痛みが右足に走る。

足を見てみると親指の付け根が赤紫になってパンパンに腫れとる。指で触っただけで絶叫。アタシや泣きながら20分かけてトイレにたどり着いた。この時私の尿酸値は9.5mg/dl。基準値の7.0を大きく超えていて、薬物治療の対象となる数値を叩き出していた。しかし私はこの危機的状況を、生活習慣の是正で乗り切ろうとした。肉時々野菜の食生活を改めビールを低プリン体の第3のビールに変え、さらに運動習慣も見直した。ところで皆さん、低プリン体のビールって飲んだことありますか。あれってスッカスカで鬼のように不味いと思いませんか？

こんなにも頑張ったボクなのに天は見放した。2011年12月某日、私は数日前から膝が腫れ上がっ

てついには歩くのも困難になっていた。ウォーキングによる炎症だと思い近所の整形外科を受診することに。先生はレントゲンを撮って、膝を見るなり「痛風やな」とポツリ。私ガックシ。

その後、恐怖の超極太関節注射の治療を受けて、なんとか歩けるように。以来、毎日尿酸を下げる薬を飲んどります。

もちろんビールはプリン体の入った普通のヤツですよ！



羽曳野からだ塾

当センターでは府民のみなさまに向けた公開講座を開いています。専門医師が身近なテーマで医療や健康についてわかりやすく解説いたします。

第2回目をむかえた今回のテーマは「インフルエンザ流行期の心構え」（橋本章司）と「肺炎になったらどうしよう」（板東千昌）でした。

「インフルエンザ流行期の心構え」については、特に高齢者のインフルエンザが引き金となって起こる高齢者肺炎のお話もありました。予防のポイントとしては、

- ①糖尿病・高血圧などの生活習慣病のコントロール（基礎疾患への対応）
- ②普段からの歩行訓練や体操などによる自身の健康状態の把握と元気がない時の家族による小さな異常の発見
- ③就寝前の歯磨き・歯石除去の徹底と肺炎球菌ワクチンの接種

また、家庭や職場における手洗いの励行とドアノブやスイッチなどのこまめな清拭や流行期の人混みの中でのマスク着用が大切だということでした。

「肺炎になったらどうしよう」については、肺炎について、症状・診断・治療について具体的にわかりやすく解説がありました。また、アルコールや喫煙との関係や、温泉や貯水池からの感染リスクなど思いもよらないお話もありました。普段よく耳にする「肺炎」ですが、この講座により、より理解が深まったようです。

肺炎球菌ワクチンについては当センター医事グループにお問い合わせください。

次回の羽曳野からだ塾は5月中旬を予定しております。手話通訳付きの講座です。皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

◆◆◆2月の教室案内◆◆◆

◆カンガルー教室	2月4・18・25日	午後1時30分～	第1会議室
◆喘息教室	2月19日	午後2時～	第2会議室
◆禁煙教室	2月5日	午後3時30分～	医療情報コーナー